



生徒がデザインした本校のシンボルマーク「オオルリ」

この鳥は八王子市の鳥であるオオルリです。飛ぶ姿には、南多摩の生徒が世界に飛び立つようにとの願いが込められています。鳥を囲む三角形は、南多摩の教育目標である「心・知・体の調和」を三つの頂点で表しています。オオルリの足には南多摩を象徴するオオクスノキの葉が握られています。



東京都立南多摩中等教育学校

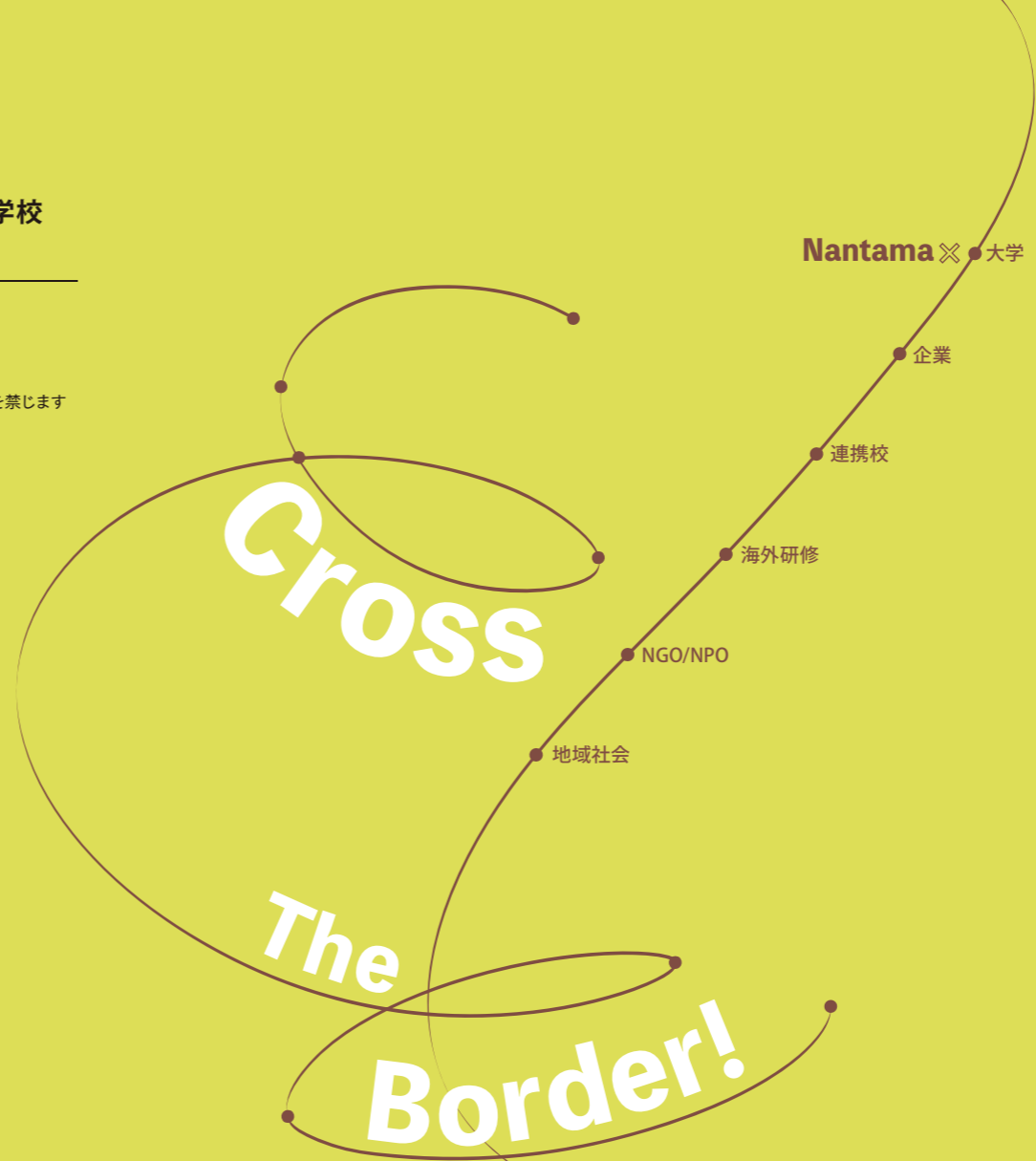
ADD. 〒192-8562 八王子市明神町4-20-1
TEL. 042-656-7030 **FAX.** 042-642-2195
Mail: S8000803@section.metro.tokyo.jp
Web: <http://www.minamitamachuto-e.metro.tokyo.jp>

東京都立南多摩中等教育学校 令和2年度事業報告

令和3年6月18日発行
発行… 東京都立南多摩中等教育学校
デザイン印刷… Monkeys Design
※本誌に掲載されている写真の複写、転載を禁じます



この冊子は再生紙
を利用しています



東京都立南多摩中等教育学校

Tokyo Metropolitan
Minamitamama Secondary
Education School

文部
科学省



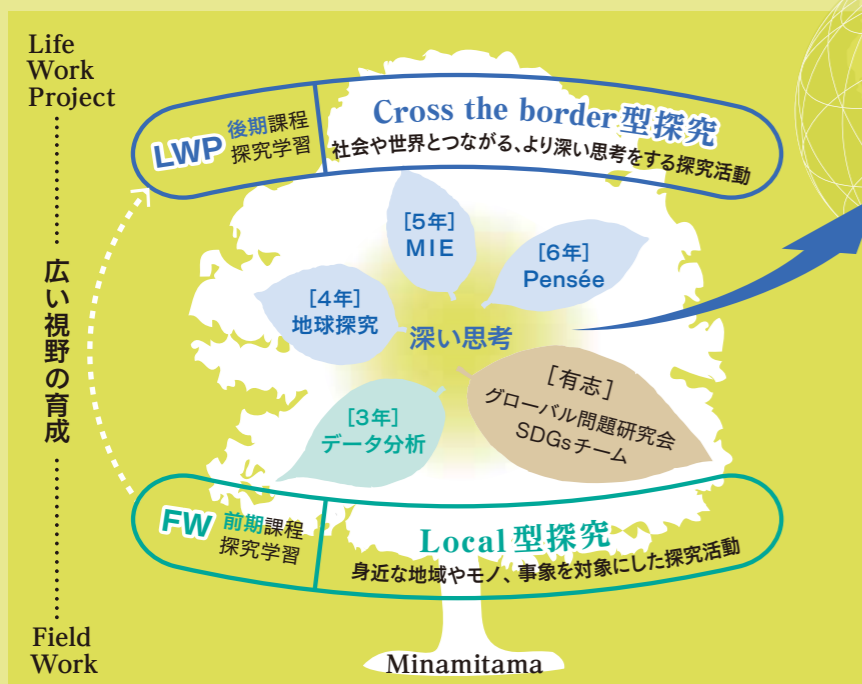
WWL
WORLDWIDE WELFARE LEAGUE
構築支援事業拠点校

令和
2
年度版



WWLコンソーシアム構築支援事業

拠点校としての取組



グローバルで
イノベティブな人材

探究の深化

World Wide Learning

コンソーシアム構築支援事業

高度な学びの提供を通じて高校生がイノベティブなグローバル人材へと育ちゆくための文科省支援事業です

WWLコンソーシアム構築支援事業を

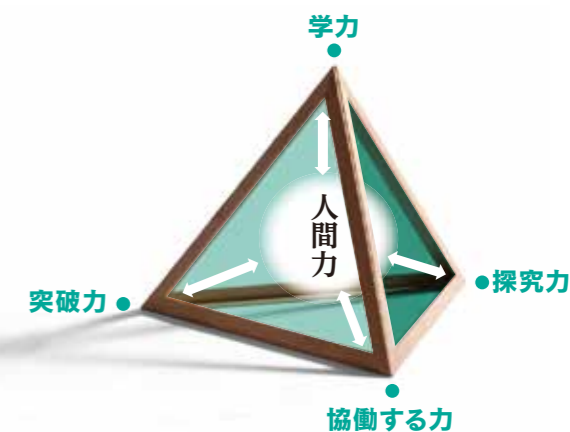
通じての本校の目指す方向

グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) の講演会の様子



- ① 探究活動を通じて、生徒のキャリア形成
 - ・ 探究活動の取り組みを通して、自己のキャリアを考え、自己の目指す進路を実現していく。
 - ・ 大学進学後も学ぶ姿勢を持ち続け、キャリア形成を図る。
- ② リーダーとして世界で活躍
 - ・ イノベティブなグローバル人材の育成

南多摩
教育活動を通して、グランドデザインで示す、「学力」「突破力」「協働する力」「探究力」を身に付け「心・知・体」のバランスのとれた「人間力」をもって社会で活躍する人材を育成する。



令和2年度WWL事業のポイント



① オンラインと対面によるハイブリッド型事業の実施

- ・ 対面講演会とオンライン講演会
- ・ 海外とのオンライン交流
- ・ オンラインによる学習成果の発表

② 文理融合の学校設定科目の実施とSTEAM教育の強化

③ 探究学習の深化

④ 新規コンソーシアム事業

- ・ 八王子市政策提言発表会
- ・ 八王子未来プロジェクト
- ・ 東京都立大学探究学習合同発表会

⑤ 探究テキストの作成



令和2年度のWWL事業（教育課程について）

4年：総合的な探究の時間を週1時間から週2時間へ

■ゼミ活動に加えて、探究活動へ多様な視野を広げる活動

| | | |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 日本政策金融公庫講演会 (探究×ビジネス) | 八王子市役所講演 (探究×地域社会) | GiFT講演会 (探究×グローバル) |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|

■文理融合の学校設定科目

| | | | |
|---------------|--------------|-------------|----------------|
| データ分析 (3年) | 地球探究 (4年) | MIE (5年) | Pensée (6年) |
|---------------|--------------|-------------|----------------|

※MIE…「Mathematics in English」の略
※Pensée…「哲学」

1 [大学]

大学と連携した高度な学び

3年生～5年生

3年生の大学訪問・グループ探究学習の発表から、5年生の探究論文個別指導まで、大学の先生方の御指導により探究学習をより深める教育を展開しています。

- 東京都立大学 …… 5年LWP論文指導
※LWP「ライフワークプロジェクト(後期課程の探究学習)」
- 東京都立大学 …… 探究学習合同発表会
- 東京農工大学 …… GIYSEプログラム
- 東京大学 …… GSCプログラム
- 電気通信大学 …… UECスクール
- デジタルハリウッド大学 …… WWL STEAM教育講座
- 東京工科大学 …… WWL STEAM教育講座
- 東京農工大学/東京外国語大学/電気通信大学 …… 高校生グローバルスクール
- 東京外国語大学 …… WWLグローバル講座「ベトナムの風」



東京都立大学での3年生の探究学習の中間発表



東京都立大学教授からの個別指導

2 [大学]

4・5年生対象 分野別大学模擬授業

4年生/5年生

10月21日(水)5・6時限目に、4年生、5年生を対象にした分野別大学模擬授業が行われました。対面の9講座とオンラインでの1講座が開講され、大学での学びと高校での学びの違いから、素粒子、ゲノム解析、ゲーム理論とナッシュ均衡など各分野における先端研究等高校生には理解が難しいテーマも丁寧に御指導いただきました。生徒たちは自分の学問的興味や進路を考慮して参加した各分野の講座を熱心に受講していました。授業後に熱心に質問をする生徒の姿も見られました。



電気通信大学 《情報工学分野》

筑波大学
《心理学系分野》

東京都立大学
《経済・経営学分野》

埼玉大学
《教育学系分野》

中央大学
《人文・社会学系分野》

筑波大学
《物理学分野》

東京農工大学
《工学・生物学分野》

東京外国語大学
《語学系分野》

北里大学
《薬学・医療系分野》

東京工業大学
《工学・化学分野》

3 [大学]

南多摩ホームカミングデー / グローバルな学び

1年生～5年生

卒業生の「学びの体験」を聞く南多摩ホームカミングデーの1回目「グローバルな学び」。今回は東京外国語大学で学ぶ1期生2名に大学での学び、海外への長期留学における学びの経験をお話いただきました。ドイツとスペインへの長期留学のお話では、日本と海外の大学との違い、それぞれの社会の違いなど失敗体験を交えてお話いただきました。27言語を学ぶ言語系単科大学における外国語学習や学生生活の様子もお話いただきました。講演後の質疑応答では、海外留学や英語以外の言語習得について等多くの質問が活発になされました。



スペイン留学の経験について

4 [大学]

南多摩ホームカミングデー / 文系の学び

1年生～5年生

卒業生の「学びの体験」を聞く南多摩ホームカミングデーの2回目「文系の学び」。今回は早稲田大学大学院で心理学、東京学芸大学教職大学院で数学教育を学ぶ1期生2名に加え、東京外国語大学国際日本学部で、本校4期生の計3名のお話いただきました。理系とは違う、文系の学びの過程、文系研究の意義、学部と大学院での学び、南多摩での経験、在校生へのアドバイス等をお話いただきました。大学の学部では授業中心、大学院では自らの研究中心というそれぞれの学びの違い。文系の研究は「研究の足跡を残し、あとからの研究者がそれをさらに高めていくこと」、英語の論文を読むことで格段に研究の幅が広がることなどをお話いただきました。質疑応答では学部をいつから決めるべきか、特に興味あるものがないときはどうするかなどの質問がありました。先輩からのアドバイスとしては、選り好みせず、なんにでもチャレンジすること、やってみたことはいつかつながっていくというお話をいただきました。



教育学について



活発な質疑応答

5 [大学]

南多摩ホームカミングデー / 理系の学び

1年生～5年生

卒業生の「学びの体験」を聞く南多摩ホームカミングデーの最終回「理系の学び」。今回は東京大学大学院で分子生物学を、東京工業大学大学院でシステム制御・サイバーセキュリティを研究する1期生2名にお話いただきました。理系分野を志した動機、大学受験、大学と大学院における研究内容、大学と大学院の学びの違い、研究生活、アルバイト等をお話いただきました。研究の内容を理解するのは難しい面もありましたが、お二人とも自分で決めた研究を楽しそうに、かみ砕いて説明くださいました。お話のあとは、これまでのホームカミングデーと同様、時間を超過して質疑応答がありました。お二人から次のようなアドバイスをいただきました。



分子生物学について



システム制御について

理系先輩からのアドバイス

- 学力は大切
進学や進路の
選択の幅が広がる
- 南多摩で探究
活動することは
大学でも大きな
強みになる
- 理系でも英語は
必須(論文を読む
も書くのも英語)
東大の大学院は
英語で授業する
- 大学での基礎
科目を大切に
- 高校で身につける教養は大学に
おける学習や研究に役立つ
文理関係なく教養は大切
- 大学では自分で自分
をマネジメントでき、
どうマネジメントする
かでなんでもできる
- 何かに全力で
打ち込む経験は
大切
(学問・サークル等)

1 WWLグローバル講座「ベトナムの風」開催 | 3年生～5年生

WWLコンソーシアム構築支援事業の一環としてWWLグローバル講座「ベトナムの風」が開催されました。講師はハノイ国家大学で日本語を学び、日本への交換留学、ベトナムでの就職を経て、東京外国語大学大学院博士課程を修了した方でした。現在、東京外国語大学オープンアカデミーでベトナム語講座も担当されています。

講演では、ベトナムの基本情報、ベトナム人から見た日本の不思議、日本語の不思議、外国人が日本や世界で学ぶ意義などをお話いただきました。そして、空気のような母語を大切にすること、様々なことを決めつけず理解しようとする姿勢の大切さを伝えていただきました。

質疑応答では、外国語学習について、海外で学ぶ上での注意点、日本とベトナムの違い、異文化に接するときの注意点などが出されました。最後には講師の方の日本語の疑問について、活発に意見交換がなされました。本年度はStudyTourでホーチミンを訪問することができないので、生徒にとってはよい学びになったようです。



【民族衣装アオザイ】
日常的に使用する人も多いそうです

「焼き魚」に対して「卵焼き」となるのはなぜ？

講師の方の日本語の疑問

「卵焼き」に対して「茹で卵」となるのはなぜ？

調理法と素材の組み合わせの合理的な説明ができないようです
みなさんもこの疑問の解明にチャレンジしてみてください！

2 ハノイ『チューヴァンアン高校』とのオンライン交流 | 2年生～4年生



1 Day ハノイにあるチューヴァンアン高校の生徒達とのオンライン交流会1回目はチューヴァンアン高校の生徒達がベトナムの紹介を楽しくしてくれました。学校や文化に関するプレゼンテーション、寸劇、そしてオンライン参加型ベトナムクイズなど、盛りだくさんの内容でした。音声の不調で聞き取りにくい場面もありましたが、本校生徒達の積極的に交流を楽しもうとする姿勢が印象的でした。

2 Day ハノイにあるチューヴァンアン高校の生徒達とのオンライン交流会2回目、チューヴァンアン高校は定期テスト中ということで、チューヴァンアン高校の生徒は全員自宅から参加してくれました。2回目は本校生徒達が日本の文化と本校の紹介をしました。日本文化紹介ではお正月、盆踊り、日本の食べ物、アニメやゲームについて紹介しました。学校紹介では1日の生活の流れ、3大行事や部活動をビデオも交えて紹介しました。本校のプレゼンテーションに対してチューヴァンアン高校の生徒からは、日本文化への質問や、食事のマナーへの質問があり、箸のマナーを伝えるのに苦労しましたが、何とか答えることができました。また、逆に本校からは、試験の科目数やスマートフォンの活用やクラブ活動について質問をしました。

計2回の交流を通じて、互いの文化や高校生活の共通点や相違点を学ぶことができました。また、英語での表現の難しさを感じるとともに、英語学習への意欲も高まったようです。この2回の交流にとどまらず、今後もチューヴァンアン高校と交流できればと考えています。



着物と浴衣の違いは？

日本文化への質問

夏のおすすめイベントは？

食事のマナーは？

上履きについて

学校生活への質問

どんな部活動に参加しているか

3 モンゴル日馬富士高校とのオンライン交流会 | 2年生～4年生

本校グローバル問題研究会(通称：GI研)とモンゴル日馬富士高校の生徒とのオンライン交流会が、GI研4名、モンゴル側5名で実施されました。日本の文化、日本の高校生の生活、モンゴルの特徴、モンゴルの高校、日本・モンゴル双方で訪問したい場所、将来の学びや留学について意見交換をすることができました。

モンゴルの高校生が日本で訪問したい場所として、沖縄、北海道、秋葉原、スカイツリーなどがありました。日馬富士高校では全員が日本語を学んでいるので今回の交流も日本語で行われました。また全員が日本の大学に留学したいと考えているようでした。日本人だけでは得られない広い視点で物事を見る姿勢を学ぶことができた交流会でした。今後も継続していく予定です。



オンライン集合写真をパチリ☆



最初は互いに緊張 段々うちとけて交流

4 モンゴル模擬国連～アジア太平洋青少年相互理解プログラム | 4年生

ユネスコアジア文化センター主催の、日本全国から選ばれた5名の高校生とモンゴルの高校生が、文化交流を行った後模擬国連会議でディスカッションを行うプログラムに参加しました。

1 Day 日本人同士の交流を深め、モンゴルユネスコの方の講義を受けてモンゴルについての知識を高める

1回目の感想 最初は他の参加者の出身に驚いた。東京は僕だけで、北は北海道、南は熊本までやる気に満ちた生徒が多く、最初の自己紹介である程度の英語力が分かったが皆レベルが高かった。日本は広いなと感じた。プレゼンが上手な人や過去に出場経験をもつ人が多く、インスパイアされた。



模擬国連の議論の様子

2 Day モンゴル日馬富士高校の生徒と交流をしたのちモンゴルユネスコの方に日本文化を紹介し、当日の流れや形式などの説明を受ける

2回目の感想 2回目に示された課題は日本の文化を紹介するというものだった。私は日本の鉄道について紹介したが、英語でわかりやすく説明するのはとても難しかった。ここでも他の参加者のレベルの高さを痛感した。

3 Day モンゴル国連会議当日

3つの班に分かれディスカッションする発言したいことがあったらあらかじめ組んでいたパートナーを通じて発言する

参加生の班テーマ 『アーティストや創造産業のレジリエンスに対する支援』

本番1日目の感想 初日の午前中は本当に何を言ってるのか分からなかったが、昼になって彼らの英語に慣れるうちに少しずつではあるが何を話しているのか、どういう意見なのか分かるようになってきた。自分の英語力を知るとともに、英語習得への意欲が向上した。

本番2日目の感想 2日目は会議自体が少しだったが、初日より会話の内容は分かったと思う。私の班の話した内容の提出用紙を見せてもらったが、とても深い内容になっていて、もっと英語力をつけたいといけななと感じた。

全体の感想 英語力が足りないのはもちろんのことだが、英語力というよりもテーマに対する考えがなさを感した。つまりこれからもっと日本語で考える練習をしないとはいけななということである。またやはり学校の外に出て活動をするのすばらしさを前回の「三校連携グローバルスクール」の時よりも感じた。日本全国の学生とモンゴルの国連に出るということはとても貴重な経験だと思うし、世界は広いなとインスパイアされた。これからは学校の内外に関わらず「面白そう!」と感じたものは積極的に挑戦していきたい。

5 その他のグローバル教育 | 2年生～5年生

「問題は他人事ではなく、自分事!!」(Cross The Border)世界にある様々な問題について、一人一人がその解決策をじっくりと考え、具体化して、行動する生徒の育成をめざしています。

★学校賞受賞 (前期課程希望者と4・5年生全員)
JICA国際協力エッセイコンテスト

JICA出前講座



1 Cross The Border 講演会

4年生

1 探究×ビジネス 日本政策金融公庫 立本 純之氏

ビジネスの観点から社会を見つめ、課題解決を図るためにどのような視点が必要かを個人ワークやグループワークを織り交ぜながらお話しいただきました。ビジネスのプランを考えるワークショップでは、多くの生徒からアイデアが出されました。



研究をする時、まず何をすれば良いのか参考になりました。また、自分で新しいものを考えるのではなく、既存の要素を組み合わせることによって新しいアイデアが生まれるという事が参考になりました。

生徒の感想

問題を解決するためにやるという意味ではビジネスも探究活動も同じだと思うので、LWPなどのように社会に役立てていくか考えるようにしようと思えた。

2 探究×地域 八王子市役所 未来デザイン室 無藤 一貴氏

「地域からの学び」では、2040年には親の世代になっている高校生が地域社会の現状と未来について考える意義についてお話しいただきました。人口減少、少子化、高齢化など将来の日本には解決すべき問題が多数存在します。高校生が当事者となって考えることの大切さを強調されていました。



3 探究×グローバル グローバル教育推進プロジェクト (GiFT) 鈴木 大樹氏

「グローバルな学び」では、大学生になってから海外に出て、社会人になってから海外留学とバックパッカーとして旅した御経験をお話しいただきました。人生は自分の思い通りにいかないこと、時には立ち止まってじっくり考えたり、読書三昧する大切さ、海外の多様性から広い視野をもつ大切さをお話しいただきました。鈴木氏のお話から、生徒たちは視野を広くもつこと、海外で学ぶ意義を学びました。



2 八王子市『高校生によるまちづくり政策提言発表会』

3年生～4年生

八王子市役所主催「高校生によるまちづくり政策提言発表会」が本校をオンラインホストとして開催されました。この政策提言発表会は、本校と都立八王子北高校、都立八王子東高校、都立翔陽高校の4校の生徒が「総合的な探究の時間」の学習の成果を発表するもので、今年度から始まりました。今回は新型コロナウイルス対策として八王子市石森孝志市長、八王子市教育委員会安間英潮教育長が本校に来校され、各学校とはオンラインで結んでの開催となりました。各校から2件ずつの発表があり、各発表に対して八王子市役所若手職員で構成される未来CANVASの職員の方から質疑・コメントがなされました。本校生徒は、グローバル問題研究会政策提言チームの「コミュニティの観点から見る八王子市の在り方～2040年に向けて～」と、探究チームonesによる「小学生の学習支援×高校生2040年の八王子を担う世代のために」の発表がありました。どちらの発表も八王子の現状分析、データの活用を踏まえて、2040年に向けて八王子をより良いものにするための提言がなされました。最後に石森八王子市長、安間教育長から、提言内容を高校生自身がぜひ実行して欲しいという御講評をいただきました。また、この日、視察で訪問された東京都教育庁指導部佐藤聖一高等学校教育指導課長からも激励のお言葉をいただきました。



八王子市長と教育長が来校



政策提言チームの発表



StudentsMeeting(オンライン)

八王子北高校・八王子東高校・翔陽高校との4校生徒による探究学習の連携活動

- 八王子市に政策提言「高校生によるまちづくり政策提言発表会」
- 2040年の八王子の未来を考える「八王子未来プロジェクト StudentsMeeting」の開催など 今後はさらに探究学習を継続するとともに、4校の生徒による活動を実施していく予定です。

3 その他の企業・地域との連携

1年生～5年生

檜原村フジの森プロジェクト

高尾山ビジターセンター

ヤクルト中央研究所
2年キャリアプログラム/バイオの研究(オンライン)

大林組
研究室訪問/宇宙エレベーターの仕組み等(オンライン)

1 STEAM教育講座①『ドローン講座』

3年生～5年生

1 STEAM教育 デジタルハリウッド大学 ドローン専攻講師

WWLコンソーシアム構築支援事業の一環であるSTEAM教育講座の1回目「ドローン講座」が本校体育館で行われました。3名の講師の方に加え、多くのアシスタントの方の御協力により充実した講義・実習となりました。本校の空撮映像から始まり、体育館入口から空撮したドローンと講師の方が体育館に入場してきました。初めて見る本校および本校上空から見た八王子周辺の映像に生徒は感動していました。講座の冒頭では現在の社会におけるドローンの活用(空撮・建築点検・農業・物流・エンターテインメント等)について講義いただきました。続いて、ドローン構造を学びました。先端技術であるドローンにはさまざまなセンサーが搭載されることで、安定して飛行し、様々な作業を実行できることを学びました。続いての実習では、2種類のドローンの操縦にチャレンジしました。体育館内に作られたコースを通過したり、各所に置かれたVRボードでゲームをしました。楽しみながらドローンの基本的な操縦技術を学ぶことができました。デジタル世代である生徒たちは最初手こずっていましたが、すぐに操縦に慣れ、課題をクリアしていました。講座最後のまとめでは、インターネットの使用があつという間に当たり前になったように、近い未来においてドローンを用いることが当たり前の社会になり、その活用を担うのは中高生だということをお話いただきました。生徒のアンケートからは科学技術への関心、Society5.0社会への関心が高まり、大学での学びの意欲が増したという回答が多数を占めました。



わずか18gのVRドローン



ドローンについての講義



最初は操縦に苦労

体育館全体を使つての実習

2 STEAM教育講座②『Society5.0社会における工学』

4年生

2 STEAM教育 東京工科大学工学部 応用化学科教授 江頭 靖幸先生

総合的な探究の時間に、STEAM教育講座の2回目の講演会が4年生を対象に実施され、「持続可能(サステナブル)な Society5.0社会を実現する工学とは」をテーマにお話しいただきました。御講演では、無限の可能性を持っているように思える未来の社会、Society5.0社会といえども持続可能(サステナブル)でなければならないという制限があり、限界もあること。有限な資源、有限な地球のなかで、それでも無限に発展し続ける社会を実現すること。そのために今までの工学も変わらなければならないという視点からサステナブル社会を実現する工学と先端技術の役割についてお話しいただきました。Society2.0社会やSociety3.0社会からの技術やエネルギー変化の歴史を振り返りながら、Society5.0社会のあり方をお話しいただきました。講演後の質疑応答では、「地球外への移住の可能性」「現在の環境問題への取り組み」など多くの質問が出されました。



技術やエネルギーの変遷を柱にした講義

生徒の感想

日本はもうSociety5.0社会の段階に移行しつつあって、今まではエネルギーを使って成長していたが、これからはエネルギーを減らして成長していくということが分かった。そしてエネルギーを減らすということは地球温暖化などの環境問題に向き合うことにつながるということが分かった。私たちの世代は環境問題を解決していかなければならない世代なので解決できる様に知恵を絞れるように頑張りたいと思った。

3 学校設定科目中のSTEAM教育

3年生～5年生

3年「データ分析」ではデータの収集、分析方法を学びます。5年「MIE」ではアメリカのSATを主たる教材として、数学を英語で多面的な視野から学びます。MIEは数学の教員と本校JETが担当し、CLIL(内容言語統合型学習)の手法を用いて、数学と英語両方の習得をめざしています。

「データ分析」(3年)
..... データ収集・分析

「MIE」(5年) ※MIEは「Mathematics in English」の略
..... 異なる解法のアプローチを習得

1 [生徒発信]

インプットからアウトプットへ

3年生～5年生

各学年の探究学習や有志のプロジェクトの成果は、大学・学会・自治体等の主催する発表会に参加し、積極的に発信しています。他校の生徒や専門家の方と意見を交換する過程で、自身のテーマについて考えを深め、さらなる活動や発表の質の向上につなげています。

- ◆ 全国高校生SRサミット“FOCUS”……………立命館宇治高校
- ◆ 全国高校生フォーラム……………文部科学省
- ◆ TOKYOサイエンスフェア研究発表会……………東京都教育委員会
- ◆ 東京都立大学探究学習合同発表会……………東京都立大学
- ◆ Toyama Science Symposium……………戸山高校
- ◆ 八王子市政策提言発表会……………八王子市
- ◆ 高校生国際シンポジウム……………Global Academy
- ◆ 環境探究フォーラム……………環境探究学研究会



オンラインを活用して発表する様子

2 [独自取組]

校内における独自の取組

1年生～5年生/教職員

◆ 探究テキストの作成 本校の探究活動をまとめてテキスト化

SDGsチーム及びグローバル問題研究会の活動

- ◆ 様々な社会的な課題に生徒が取り組む
例)牛乳パック問題
八王子未来プロジェクト
- ◆ SDGsに生徒が取り組む
例)昆虫食プロジェクト
たまきふプロジェクト
(※発展途上国に文房具等を寄付するプロジェクトのこと)

成果発表会及びシンポジウム

第1部は、1年間の探究学習の成果を1年生～3年生の生徒はグループごとのプレゼンテーションで、4年生と5年生は個別のポスターセッションで発表しました。第2部は、有識者の方と他の都立高校の教員を招いて、探究学習のテーマ設定の在り方、どのような生徒の育成を目指すのか等について意見交換を行いました。

第1部/オンラインによる生徒発表

第2部/有識者を招いての『MINAMITAMA 探究シンポジウム』

「探究学習と高大接続、そしてキャリア形成へ」

| | | |
|----|----------|--------|
| 講師 | 國學院大學教授 | 田村 学氏 |
| | 東京都市大学教授 | 佐藤 真久氏 |

教員研修の還元(視察・海外等)

- ◆ ドイツの教育を視察 / 青少年指導者とのオンライン会議(11月)
- ◆ 校内における還元研修



科学的検証活動の様子

2020

令和2年度事業の評価

2021

令和3年度事業

教員意識調査

- ◆ WWLコンソーシアム構築支援事業の教員への定着と教育活動への反映
- ◆ 生徒観の変容……グローバル・英語活用の評価が上昇

教員が生徒の意識の変化を感じる項目

- ◆ グローバルな諸課題の解決に貢献したい
- ◆ 海外でのボランティアなど国際的活動に積極的に参加したい
- ◆ 外国で働くことも視野に入れて職業選択したい
- ◆ 自分の意見を英語で効果的に述べている
- ◆ 学んだ内容なら抽象的内容を英語で議論できる
- ◆ グローバルな諸課題の解決を日常から考えている

生徒意識調査

- ◆ グローバルな視野の広がり(海外への関心の高まり)
- ◆ 英語活用意欲の高まり

昨年度より増加した項目

- ◆ グローバルな問題の解決に貢献したい
- ◆ 将来海外への留学を意識している
- ◆ 海外ボランティアを考えている

GPS-Academic(4・5年生)

批判的思考力・協働的思考力に比べ、創造的思考力が弱い傾向がある

令和3年度事業のポイント

事業成果の発表と他校への還元

- ◆ コンソーシアムによる教育成果とその検証
- ◆ 事業報告書の作成
- ◆ 構築したプラットフォームを他校に還元

文理融合探究力の深化とキャリア形成

- ◆ 探究とキャリア形成の効果検証
- ◆ 学校設定科目の効果検証

創造的思考力を高めるSTEAM教育

探究学習・STEAM教育

学習活動における取組

- ◆ Cross The Border型探究学習の充実
- ◆ 学校設定科目と効果検証
- ◆ 探究活動とキャリア形成の効果検証
- ◆ WWL・STEAM教育講座の継続
東京大学先端研、東京工科大学、デジタルハリウッド大学との連携

生徒の発信

- ◆ 探究学習の発表の質の向上
- ◆ グローバル問題研究会及びSDGsチームの活動支援

外部との連携

企業・大学・地域社会・NPO等の連携

- ◆ 生徒の広い視野の育成
- ◆ 探究力の深化
- ◆ 生徒の活動の質的向上

グローバルな活動

- ◆ 対面とオンラインの併用
- ◆ WWLグローバル講座への参加

コンソーシアムの強化

- ◆ 他の高校とのコンソーシアムによる教育プラットフォームの構築
- ◆ 高大連携の仕組みの構造化

効果検証・成果発表

教育効果の調査・検証

- ◆ 生徒意識調査の継続
- ◆ テキストマイニングによる分析
- ◆ 教員意識調査の継続
- ◆ 外部アセスメントの活用

成果の発表

- ◆ 令和4年3月19日実施 本校独自の成果発表会及びシンポジウム
- ◆ 東京都教育委員会による動画作成
- ◆ 東京大学先端研での研究発表会
- ◆ 事業報告書の作成



Tokyo Metropolitan
Minamitama Secondary
Education School